

キャラクター名  
九条 暁”クジョウ アキラ”

プレイヤー名

シンドローム	エグザイル ブラックドッグ		ワークス	高校生	カヴァー	高校生
	オプション		年齢	17	性別	男
覚醒	死	衝動	妄想	初期侵食率	32	%
出自	義理の両親	経験	平凡	邂逅	家族	

	基本値	ワークス	ボーナス	成長	他修正	能力値	HP	31
肉体	4	1	0			5	行動値	5
感覚	2	0	0			2	(非装備時)	5
精神	1	0	0			1	戦闘移動	10
社会	1	0	0			1	全力移動	20

肉体			感覚			精神			社会		
技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正
白兵	4		射撃			RC	2		交渉		
回避	1		知覚	1		意志		1	調達	1	
運転:			芸術:			知識:			情報: 噂話	1	
運転:			芸術:			知識:			情報: K市	1	
運転:			芸術:			知識:			情報:		
運転:			芸術:			知識:			情報:		
運転:			芸術:			知識:			情報:		

武器・コンボ	能力	命中値	G値	攻撃力	射程	メモ
骨の剣・死招きの爪1~99	白兵	5r+3	6	20		素手データ
骨の剣・死招きの爪100~	白兵	5r+3	6	26		素手データ

防具	価格	装甲	回避	行動	メモ

所持品	
コネ: 噂好きの友人	
思い出の一品	

合計装甲: 0    合計回避: 0

ロイス				
対象	感情(pos)	感情(neg)	タイ	消費
雷帝	P	N		
九条家	P 信頼	N 隔意		
和泉 一久	P 尊敬	N 嫉妬		
和泉 千尋	P 連帯感	N 不安		
神谷 香蓮	P	N		
	P	N		
	P	N		

最大財産P: 4    残り財産P: 1

スキル名	SL	コスト	タイミング	射程	対象	判定	制限	メモ
ワーディング	★	-	オート	視界	シーン	自動	-	
効果: 非オーヴァードのエキストラ化								
リザレクト	0	1d10	気絶時	-	自身	自動	↓100	
効果: コスト分のHPで復活								
コンセントレイト:ブラックドッグ	2	2	メジャー	-	-	シンドローム		
効果: C値-LV								
アタックプログラム	1	2	メジャー	武器	-	白兵		
効果: 達成値+[LV*2]								
ミカヅチ	1	6	メジャー	-	-	シンドロームDロイス		
効果: ダメージ+3d								
骨の剣	5	3	マイナー	至近	自身	自動		
効果: 素手データ変更								
死招きの爪	2	3	マイナー	至近	自身	自動	リミット	
効果: 骨の剣: 攻撃力+[LV*5] 他の武器を装備不可								
異形の転身	1	5	イニシアチブ	至近	自身	自動		
効果: 戦闘移動 離脱可能								
鼓舞の雷	1	4d10	イニシアチブ	視界	単体	自動	120	
効果: 行動割り込み								
異形の相	1							
効果:								
異形の歩み	1							
効果:								
効果:								
効果:								
効果:								
効果:								

・背景  
「人を好きになっちゃいけない」  
10数年生きてきて僕はそう何となく感じた。  
父は幼い頃に病気で死んだ。母は目の前で車に轢かれて死んだ。  
好きな人達が僕に関係ないところで突然死んでしまった。小さな僕はそれに耐えられなかった。  
まるで「お前にとって必要ないから奪った」と、運命がそう囁いているように感じたから。  
そんなものは認められなかった。だからせめて僕のせいで死んでしまったと、そういうことにした。  
僕が好きだったから大切な人が死んだのだと思い込んだ。思い込んでいたうちにそれは僕の中で思考を縛る鎖になった。  
この鎖はまだ僕の心に絡みついて無くならない。だけど僕の心が壊れないようにしてくれる。  
だから僕は大切な人たちのことを好きにならない、むしろ嫌いだと心の中で唱え続けようとして決めている。  
でも、僕は嫌われたくはないなんて浅ましい感情もあるから、自分の心の内がでないように笑顔を貼り付けて、優しい言葉で着飾って、別の自分を作り上げる。  
それでも誰かが死ぬよりずっといいなんて都合のいい言い訳をして、自分も他者も偽って、ホントを隠す。  
僕はずっと前に進めずにいる。

願いが叶うなら偽らなくてもいいと思えるだけの勇気がほしい、前に進みたい。

・能力  
腕や背から骨の爪が無数に生え、尾のようなものも生える。それは毒虫を人の形に押し込んだように醜悪で、  
化け物に落ちてしまったのだと自覚してしまう姿。それを操り雷を纏い切り裂く。  
其の姿を彼は「僕に相応しい姿になったんじゃないかな」と笑う  
【雷帝】